

# コーディネーターだより

令和6年10月  
文責 橋本

## 《地域のセンター的な役割について》

八代圏域は、鏡わかあゆ高等支援学校と本校が特別支援教育のセンター的な役割を担っています。特別支援教育に関する研修の企画・運営、会場の提供、八代市内・氷川町の小中学校への巡回相談（児童生徒、教職員）、学校見学・就学相談などが主な活動になります。その一つとして、10月15日に本校で、特別支援学級等担当者指導力向上研修会がありました。今年は、15名の小中学校の特別支援学級担当の先生方が参加し、自立活動の授業参観や協議を通して特別支援教育に関する研修をしました。研修の成果をそれぞれの学校で発揮されること期待します。



《グループ別協議の様子》

## 《高等学校における特別支援教育》

私は、八代圏域の高等学校コーディネーター会議（高等学校特別支援教育八代地域エリア会議）に参加しています。ばとんぱす（県からのたより）や手をつなぐ育成会会報などで、高等学校の特別支援教育の状況は、情報提供がっていますが、今回は、高等学校の特別支援教育についてお知らせしたいと思います。

### 《高校にも通級による指導を行う教室があります》

平成30年から制度化され、県内8校に設置されています。八代管内では、八代農業高校、近隣では、宇城市の松橋高校にあります。対象となるのは、自閉症・情緒障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのある生徒です。高校の各教科に加えて、それぞれのニーズに応じた学習（自立活動）が行われます。八代農業高校では、これを「アクティブライフスキル」の時間として、週一回程度、放課後の7時間目に実施しているそうです。一人一人の課題に応じて、自己理解、アンガーマネジメント、手帳を使ったスケジュール管理など、学習上・生活上の困難を改善・克服するために学習しています。

### 《高等学校の敷地内に特別支援学校の高等部が移転しています》

県内5校の高校の敷地内に特別支援学校の高等部が移転し、「共に学ぶ」学校の取組が行われています。近隣では、松橋高校に松橋西支援学校の高等部が、今年度移転しました。同じ場所にあることで、同年代の生徒同士の交流の機会も多くなります。

### 《特別支援教育支援員の配置がある学校もあります》

県立高等学校の特別支援教育支援員については、八代農業高校、泉分校、松橋高校を含む15校に配置されています。発達障がいがある生徒の学習面、生活面のサポートや肢体不自由がある生徒の移動補助、日常生活介助等の支援が行われています。

平成19年から始まった特別支援教育ですが、これまでに随分充実してきたことをお伝えしたいと思います。

## 《書籍の紹介》

「手をつなぐ」7月号の中に「障害のある人が使える支援」という本が紹介してありました。どんなことが書いてあって、どのように説明してあるのか興味があり、1冊買ってみました。本の特徴として、見開きの左のページは、「障害者手帳って何ですか？」というような質問と答えが言葉で説明してあります。右側のページは、説明をイラストにして説明してありました。漢字には全てルビがあり、文字や文章をできるだけ少なくしてあることから、見てみようかなと思える本でした。中身の方は、「障害者手帳」「お金のこと」「福祉サービス（相談、住居、住居等）」等、大きく6つのパートに分けて書かれています。内容は、八代市から出ている「障がい福祉ハンドブック」に書いてあることを簡単な言葉やイラストで説明してあるイメージです。高等部の職業や中学部の職業・家庭の教材としても活用できるかもしれません。興味のある方は、橋本までお知られください。

\*障がい・障害の表記は、原文による